

2022年3月20日 主日礼拝

説教題 『『すべての民』は誰を指すか』 マタイ福音書 28 章 16～20 節

シンガポール国際日本語教会牧師 伊藤 世里江

「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。」(マタイ28章 19 節 a)

日本バプテスト連盟のアジアミッションコーディネーター (AMC) の働きを 3 期 9 年間させていただきましたこと、この間の大井教会のみなさんの祈りと励まし、世界祈禱週間献金の献げ物を本当に感謝します。

1. 「すべての民」の射程

9 年前に AMC の働きとシンガポール国際日本語教会 (IJCS) の牧師を引き受ける前に、シンガポールのことをお聞きしようと、IJCS の前任者である大谷恵護牧師とレニー先生をご自宅までお訪ねしました。先生たちはシンガポールでの写真や資料を見せてくださり、シンガポールの教会の様子や日本から派遣された音楽伝道隊のことなど、熱心に話してくださいました。わたしが恵護先生に、シンガポールに行つて、なにか自分が変わったと思うことはありますか、とお尋ねすると、即答で、「聖書の読み方が変わったね」、とのことでした。どのように変わったのですか、と聞くと、「すべての民」というときに、自分がどこまで、すべての民の射程を考えていたか。多民族多文化のシンガポールで、「すべての」という広がりを考えるようになった、というような主旨のことを言われました。わたしも、それを実際に体験したいと思いました。

AMC として、シンガポールのみならず、カンボジア、韓国、ミャンマー、インドネシア、マレーシア、フィジーなどを訪ねる機会を与えられました。また、シンガポールでも世界バプテスト青年大会が 2013 年に赴任後すぐに開催され、「すべての民」の広がり的一端に触れることができました。2016 年には世界バプテスト女性リーダーシップ研修会で、南アフリカに女性連合の派遣で参加することができ、「世界」の広がり、「すべての民」の深みをそこで出会った世界の主にある姉妹たちの交わりで知らされました。

日本では、今、お金がないからあれができない、これができないという話を良く聞きますが、アフリカの国々から来ていた人たちは、財政破綻している国もいくつもあります。でも、ちっとも悲観的でない。「イエス様以外に何が必要だつていうの？」という感じなのです。私たちは今まで、目に見えるものに、頼りすぎていたのではないのでしょうか。

2. 外国在住(離散:ディアスポラ)ユダヤ人を用いた主(使徒言行録 11 章 19～26 節)

初代教会の時代から、福音はヘブライ語を話すユダヤ人から、外国に移住していたユダヤ人たち (ディアスポラと呼ばれていた)、そして、外国移住のユダヤ人た

ちを通して、さらにユダヤ人以外の異邦人へと、福音が伝えられていきました。そうとうなスピードで、初代教会の時代に、福音が異邦人へと広がり、異邦人が福音の主な担い手となっていきます。

神は外国に暮らすユダヤ人たちを用いてくださり、エルサレムで迫害に遭って、散らされながらも、彼らは福音を伝えることを辞めませんでした。迫害によって散らされたユダヤ人たちが行きついたアンティオキアが、パウロの国外伝道の拠点教会となっていきました。エルサレム教会から派遣されたバルナバが、パウロこそ、異邦人伝道にふさわしい人材だと、ふるさとのタルソにこもっていたパウロを見つけ出し、アンティオキアで1年間、教会での生活を共にし、バルナバとパウロが共同でアンティオキア教会の基盤を築いていきました。

初代教会は最初から、言語の違い、民族の違い、聖書理解の違いなど、多くの違いを抱える者たちが、放っておくとすぐにばらばらになる危険性を持ちつつ、違いがダイナミックにも働いて、福音を広げていきました。人々が迫害に遭いながらも、福音に生きる喜び、イエスの十字架と復活の希望に生きる喜びを、あらわしていたことが聖書から伝わってきます。

3. 和解の福音に生きる

シンガポールやアジアの国の人たちと共に生きようとするとき、日本の戦争責任のことを考えずにいられません。シンガポールやインドネシアも日本が戦時中、侵略し、支配していた国々です。シンガポールでは、2月15日が日本軍がシンガポールを陥落した日で、総防衛の日”**Total Defense Day**”として毎年、覚えられています。今年はシンガポール陥落80年でしたので、その時代を生きた人たちの証言もマスコミでも紹介されていました。その直後のロシアのウクライナ侵略の連日の画像を、80年前と重ねて見た人も少なくなかったと思います。IJCSも戦争の時代に日本軍に苦しめられたシンガポール人の、赦しと祈りから始まった教会です。イエス・キリストにある和解の福音を、赦された者として、共に伝えていく使命を感じています。

IJCSでは、昨年から東京北キリスト教会に、若い中国人夫妻を宣教師として派遣しています。今週の土曜日には、東京北教会で、郭修岩宣教師の就任式が行われます。海外に住む日本人と、アジアのさまざまな国の人たちが集うことで、IJCSが和解の福音を生き、分かち合う教会になっていくことを願っています。

「すべての民」というときに、どのような人を考えているか？ イエスさまは、「民全体に大きな喜びを告げる」（ルカ 2：10）ために、わたしたちの中に生まれてくださいました。そして、復活したイエスさまが、「すべての民をわたしの弟子にいなさい」と命じられました。

大井教会に委ねられている「すべての民」に、新しくなった大井教会を通して、イエスと共に生きる喜びが伝えられていきますように。